

第 1 1 9 2 回教育委員会会議録

1 日 時 令和 7 年 4 月 2 3 日（水） 午後 3 時 0 5 分～午後 4 時 5 3 分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 藤丸教育長 原委員 山本委員 森下委員 小泉委員
松下学校教育監 廣部副部長
廣瀬教育政策課長 遠藤教職員課長 渡邊高校教育課長 谷口義務教育課長
志尾生涯学習・文化財課長 松枝保健体育課長

4 議 題

日程第 1 第 1 号議案 福井県指定文化財の指定について

日程第 2 第 2 号議案 教育職員免許に関する規則の一部改正について

日程第 3 第 3 号議案 福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

日程第 4 第 4 号議案 福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について

5 審議事項

(1) 開会宣告 午後 3 時 0 5 分

(2) 会議録署名人の指名 森下委員 小泉委員

(3) 議事要録

教育長 本日の日程第 1 第 1 号議案から日程第 4 第 4 号議案、協議報告事項の 3 から 7 については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発議

—————当該議案を非公開と決する—————

◎協議・報告事項

(1) 福井県教育振興基本計画の進捗について

原委員 タブレット端末の更新について、公費での負担が 3 県のみということだがその他の県ではどのように対応しているのか。

教育政策課長 検討中の県もあるが、多くの都道府県では保護者負担による更新で検討を進めている。

原委員 端末を県で用意することのメリットとしては、どのような点が挙げられるのか。

教育政策課長 公平な学びの機会の確保という面から、県で一括して導入を進めていきたいと考えている。

山本委員 資料1の14ページで、デジタル教材導入率が小中学校で約80%、高校では100%となっているが、未導入の小中学校はどのような状況なのか。

教育政策課長 デジタルドリル等については導入に経費がかかり、市町によって、公費で整備しているところや、保護者負担で導入しているところがある。全小中学校で導入はしていない状況である。

山本委員 導入率を100%にすることについて、県としてなにか方策はあるのか。

教育政策課長 今年度から教育DX推進室を教育政策課内に設置し、各市町の先進的な取り組みを横展開し、各市町にデジタル教材の活用などを進めていきたい。

山本委員 目標は100%ということか。

教育政策課長 小中学校についてはタブレット更新に国庫の補助金が付く。その活用を進めていくため、デジタル教材なども導入の方向で考えている。

小泉委員 タブレットは何年ごとに更新を行うのか。

教育政策課長 耐用年数が5年から6年のため、これに合わせて更新している。現在使用している端末は令和2年12月頃に導入し、活用していたが、それが令和7年12月で5年経過するため、計画的に3年程度かけて入れ替えをしていく。

森下委員 地域デザイン講座についてお尋ねしたい。教育長自ら、これまで県内の高校20校で講義し、高校生に大変好評だということだ。多くの学生が県外に出ていく状況下で、福井県に愛着を持ってもらう意味でも、大変貴重な経験と思うが、今後どのように推進していくのか。

高校教育課長 今年度は第1回として武生高校で1年生を対象に実施を予定している。残り県立高校25校のうち、職業系の学校が11校ある。職業系の学校では、福井の産業についての一斉のオンライン授業があり、その時間を利用して昨年度実施した。職業系については同じ形式で今年度も実施する予定である。県外進学者が多い普通科高校については、昨年度は9校行ったが、それも含めてすべての普通科高校で実施したいと考えている。

原委員 方針4の「国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成」に関して、コロナ禍により、国際系の学科の志望者が減ったり、また、円安等の影響で渡航が難しくなったりするなど、学生の海外志向が低下しているのではないかと。学生の意識の変化についてお聞かせいただきたい。

高校教育課長 コロナ禍では、国際系の学科では海外に行けず苦勞していたが、現在は、学科を問わず、海外の研修旅行という形で渡航する学校もあり、従来のプログラムに戻りつつある。高校教育課としては、海外に目を向けるような生徒に、引き続き支援をしたいと考えており、渡航前と渡航後の経過を確認しながら進めていく。

今年度については、福井グローバルサークルという企画がある。普通科を中心に海外に目を向ける生徒を、学校の枠を解いて集めようというものである。ゴールデンウィーク明けから募集を開始し、6月初旬頃にサークル員を集め、50人から70人規模のサークルを作り、夏にサークル員対象にキャンプをしたり、国際交流会館等での行事とサークルの生徒たちをつないだりするなど、海外へのアクセスの機会を増やすべく、準備をしている。

小泉委員 海外からいかに目を向けてもらうという点で、このグローバルキャンプでの相手の外国の方が日本の生徒たちに対してどう思ったのか、調査していただきたい。

また、海外に行った際に、日本のことも知らないと言苦勞することもあるのではないかと思う。福井や日本について生徒たちが学べるような取り組みもあれば、お知らせいただきたい。

(2) 令和7年度福井県立高等学校入学者選抜の結果について

山本委員 合格者平均点について、選択問題AとBでの点数の差をどう捉えればよいか。

高校教育課長 学校によって、選択問題AかBを選ぶ仕組みとなっており、選択問題Aを選んでいる学校は主として職業系の学科の学校が多いという状況である。

山本委員 選択問題の導入で難易度を変えたことは理解できるが、AとBの違いはなにか。

高校教育課長 選択問題を導入した経緯をご説明申し上げます。以前は全ての学校が同じ問題を使っていたが、福井県の入試問題が難しいこともあり、学校によっては平均点が低くなり、選抜が難しい状況が発生した。Aの一部の問題がより基礎的なものを問うものに大問ごと変えてあり、それにより、Aを選んだ学校も選抜ができる結果に収まるように作問をしている。

小泉委員 応募資格の変更について、海外の学校からの出願も認めるようになったということだが、海外からの受験者を募るようになった理由は、子どもの数が少なくなっているためか。

高校教育課長 従来、一般入学者選抜にて、海外の日本人学校に在籍していた生徒が、保護者の転勤を機会に県内の県立高校を受験したケースがあった。しかし、特色選抜については一般入試選抜の仕組みが適用されてなかったため、昨年度より一般選抜と同じ資格に変更したという経緯である。

教育長 日程第1、第1号議案を議題

生涯学習・文化財課長 資料に基づき説明

教育長 第1号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案通り可決—————

教育長 日程第2、第2号議案を議題

教職員課長 資料に基づき説明

教育長 第2号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案通り可決—————

教育長 日程第3、第3号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 第3号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案通り可決—————

教育長 日程第4、第4号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 第4号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案通り可決—————

◎協議・報告事項

(3) 令和8年度福井県公立学校教員採用選考試験について

(4) 令和7年度大学入試の結果について

(5) 令和7年3月県立高等学校卒業者の就職状況について

(6) 令和7年度教育委員会関係表彰について

(7) いじめ問題対策連絡協議会委員について

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後4時53分